

学会記事

設立総会

1998年10月7日 16:50～17:55: 岩手県立大学総合政策学部会議室

議長に細谷昂氏を選出、議事録を土井時久氏が作成することにして議事に入る。

- 1 学会会則（案）を原案の通り承認、付則の施行日を1998年10月7日とした。
- 2 学会編集委員会規程（案）を原案の通り承認、付則の施行日を1998年10月7日とした。
- 3 学会誌「総合政策」投稿論文審査要領（案）を原案の通り承認した。
- 4 審査用紙（案）について「判定理由」の括弧内の一部を修正した。
- 5 『総合政策』投稿規程（案）を原案通り承認。
- 6 役員選出について。巻末に掲載の通り選出した。

理事会

第1回: 1998年10月28日

1. 入会手続について
2. 編集委員の選出について

第2回: 1999年1月13日

懇話会の開催について

4月以降に、夏期休暇期間や入試期間等を除き月1回のペースで、会員相互の理解を深めるため、懇話会をもつことが決まった。形式は、1回に二人ずつ、一人の持ち時間1時間（意見交換を含め）。話題は、会員の関心事・研究領域紹介、学会動向等々。

編集委員会

第1回: 1998年11月4日 17:15～17:25: (学科長室): 出席者: 土井、由井、リヒタ、高橋、村木、小針

- 1: 委員長の選出
- 2: 次回日程の決定

第2回: 1998年11月11日 13:00～16:30: (学科長室): 出席者: 土井、由井、リヒタ、高橋、村木、小針

0: 前回議事録確認

- 1: 第1回発行分の作業日程について
 - 1-1: エントリー状況の確認について
 - 1-2: 分冊の内容について
 - 1-2: 査読依頼の方法
 - 1-3: 印刷所の選定
 - 1-4: その他 (ISSN, 学術刊行物指定など)
- 2: 頁レイアウト、表紙のデザインについて
- 3: 第2回発行分の作業日程について

第3回: 1998年12月2日: (学科長室): 出席者: 由井、高橋、村木、小針

- 1: 論文提出状況の確認及び査読者の決定
- 2: ワーキング・ペーパーの作成について
- 3: 次回日程の確認

第4回: 1998年12月16日 11:00~12:00: (第3講座研究室): 出席者: 土井、由井、リヒタ、高橋、村木、小針

- 1: 前回議事録確認
- 2: 論文投稿状況の確認
- 3: 長文論文の扱いについて
- 4: 編集経費に支出について
- 5: 巻号の付け方について
- 6: 英文サマリーの提出について
- 7: 査読者への謝礼について
- 8: 委員の業務分担について
- 9: 「発刊によせて」の原稿執筆依頼について
- 10: 次回日程の確認

第5回: 1999年2月1日 13:30~15:00: (学部長室): 出席者: 土井、小針、高橋、リヒタ、由井、昆 (オブザーバー)

- 1: 前回議事録確認
- 2: 学会誌等編集所要経費の支出方法
- 3: 学会誌巻号の付け方: 第1号、第2号……とする。
- 4: 論文以外の記事の掲載について
 - ・細谷理事長の創刊の辞、学会記事、会則、編集委員会規程、役員名簿を載せる。
 - ・今後は、書評、判例紹介、資料紹介、短報なども載せるようアナウンスする。
- 5: 受理論文について
- 6: 論文サマリーについて
- 7: その他
 - ・2月15日前後に編集委員会を開催するが、改訂論文の出方による。
 - ・学会誌体裁; 表紙等はレザック66の色とする。大学ロゴマークを表紙左下に入れる。
 - ・学会誌に価格をつける。
 - ・100部は別刷り。すべて県費による。
 - ・奥付に著作権が学会にあることを入れる。

(報告その他)

1. ISSN は、1344-6347となった。
2. 印刷業者は河北印刷(株)に決定。
3. 第1号の論文の掲載順序は次回に決める。
4. 第2号エントリーは約12編。

第6回：1999年3月3日：(学科長室)：出席者：土井、由井、リヒタ、高橋、村木、小針

- 1：前回議事録の確認
- 2：論文2編を受理
- 3：印刷業者への原稿提出までの作業手順の確認
- 4：その他（第1号発送先リスト作成手順の確認、編集委員長印作成について、次回日程の決定）

第7回：1999年3月20日：13:30～15:30（学科長室）：出席者：土井委員長、由井、小針、リヒタ、村木、高橋（今回文責）、河北印刷・松尾（オブザーバー）

- 1．表紙のデザインについての打ち合わせ
- 2．第2号の論文担当委員の決定
- 3．その他
 - ・ 受理証明書の発行について
 - ・ 送付先リストの作成について

編集後記

「総合政策」学会誌、第1巻第1号をお届けします。査読をへた論文を印刷するだけのことですが、いざはじめてみると頁レイアウトをどうするか、表紙は？などと付随する諸々に手間がかかるとものだと実感しました。学会記事の編集委員会の項をお読みになればわかりいただけると思います。

全学的には電子紀要の構想もあります。そのメリットも採り入れつつ活発な研究成果発表の場を確保したいものです。

(T. D.)